

平成27年度2学期終業式「訓話」(平成27年12月24日)

新潟県立長岡高等学校長

轡田勝祐

「歳月人を待たず」という言葉があります。平成27年も師走となり、そして今、年の暮れを迎えています。皆さんそれぞれは、長岡高校で過ごしている時間の経過をどのように感じていますか。「歳月人を待たず」というのは、時は人の都合などに関係なく刻々と過ぎていくものであり、人を待ってくれることなどないということです。二度と戻らない時間を無駄にせず大切に過ごしなさい、努力に励みなさいという戒めの言葉でもあります。特に、3年生には、自己実現のために残された時を有意義に有効に過ごしてほしいと思います。長岡高校には、先輩達がこの期間を乗り切ってきたという、すごい蓄積があります。先生方からの指導を信じて頑張ってください。

長岡高校も時が過ぎ、本日、平成27年度第2学期の終業式を迎えています。皆さんは、平成27年を本当にどのように過ごされたでしょうか。いつも申ししているとおりですが、よくできたところ、あまりうまく行かなかったところ、もう少し努力した方が良かったな、ということがさまざまあると思います。特に、うまくできたなということ、日記帳やノートなどに書き上げて、リストにしておくのもいいことです。自分自身を肯定しておくことで、次につなげるための発想が生まれるはずで、終業式の本日、そのようなことを考えてみてください。皆さんの長岡高校での一日一日の時を大切にお過ごしください。

長岡高校での時を過ごした平成27年で、学習活動、部活動、学校行事の取組、スーパーサイエンスハイスクールSSH3年目の取組、そして、皆さんのそれぞれの活動で、長高生の素晴らしい活躍や成果が示されています。校長として、とても充実した時を過ごすことができます。感謝したいと思います。皆さんのそうした経験や成果が、次なる取組や活動に、ひいては、自身の夢や志に向けた歩みに活かすことができるものになると、校長として信じています。

今日は次に、卒業証書授与式について、皆さんに伝えておきたいこと、考えてほしいことがあります。3年生だけでなく、全校生徒によく聞いてほしいと思います。

本年度の卒業式から、卒業生一人一人の氏名を学級担任の先生方から読み上げる形に変わります。これまでの卒業式においても、長高卒業生として先輩は皆、プライドと自信をもって巣立っていきました。本年度からは、皆さん一人一人の名前を読み上げることによって、長高生・長高卒業生としての、より高い意識をもって卒業の瞬間を迎えてもらいたいという思いで、今年から変えることにしました。

そして、卒業の日において、華美にならないよう、意識してほしいということです。つまり、式に臨む姿勢として、化粧をしてくること、髪の毛に加工を加えてくること、大きな髪飾りをつけることを自粛してほしいということです。我が長岡高校には、生徒会組織である和同会が、その総会において採択された「制服制度廃止宣言文」があります。昭和47年9月27日に採択したものです。和同会は本年度、創設140年の年であることをお伝えしてきました。伝統ある和同

会のこの「制服制度廃止宣言文」によって、我が校には現在も制服はありません。生徒手帳にあるこの文章をぜひ読み返してもらいたいと思います。

「・・・ここにわたしたちは、制服制度を廃止した新たな学校生活のスタートを切ることになる。そこでは、今までより一層各自の良識が重要視されると同時に、わたしたちの負う責任も重くなることは明らかであって、今後、新たに築きあげたものを望ましい状態に保ち続ける不断の努力が必要なのは言うまでもない。わたしたちが長岡高校の生徒であることを忘れず、常に集団における自由の意味を自ら問いつつ行動するならば、そこにはおのずから強制によらぬ新しい秩序が生まれるものと、わたしたちは確信している。・・・」

(県立長岡高等学校和同会 「制服制度廃止宣言文」より抜粋)

私は校長として、同宣言文の精神を尊重する立場にあります。長岡高校生として良識にそぐわないものについては指導するというので、先生方はていねいに指導に当たっています。皆さんは「各自の良識」のもと、適正な姿勢で学校生活を過ごしてくれています。これは長岡高校生でなければできない、素晴らしい姿勢です。すごいことだと思います。また、同宣言文に「強制によらぬ」とあるように、卒業式における皆さんの姿勢、意識についても「各自の良識」を、私は信じたいと考えています。今申した、私の基本姿勢を理解してもらった上で、卒業式に臨む姿として華美にならないようにという、私の考えを受け止めてほしいと思います。

さて、今日の話です。第二部会の開会式で、「読書百遍 意 自ら通ず」という言葉を紹介して、読書にぜひ励んでほしいと申しておきました。そのことに関して加えて申しておきたいと思います。

19世紀のフランスに、アンリ・ポアンカレというすごい数学者で物理学者でもある先生がおられました。数学のミレニアム懸賞問題(100万ドルの懸賞金が掛けられている7つの問題)の一つが先生の名前のついた「ポアンカレ予想」です。7つのミレニアム懸賞問題のうち唯一解決されたのが「ポアンカレ予想」です。アンリ・ポアンカレ先生の言葉です。

「偶然は、それを受け入れる準備のできた精神のみに訪れる」

セレンディピティという言葉があることを知っていますか。セレンディピティとは、思いがけないことを偶然に運良く発見する能力のことです。この言葉については自分で調べてみてください。知っている人もいます。偶然に運良く発見する能力、セレンディピティはただ待っていても発揮することはないということです。大切なものを見逃してしまう可能性が大きいのです。ポアンカレ先生は、自分自身に準備ができていないと、もっと言うと、失敗という経験を積み重ねていないと、大切な偶然を逃してしまうことになるよ、と言っているのだと思います。長高生なら、自分の好きな学習をどんどん進めることができるでしょう。好きなジャンルの本を読み進めることもできるでしょう。私がぜひ皆さんにここで申したいことは、それだけでなく、文系の皆さんにはぜひ理系科目の学習もしっかり取り組んでほしいし、理数科や理系の皆さんには文系科目もしっかり取り組んでほしいということです。SSHの様々な取組でうまく行かないことが

あるでしょう。うまく行かないことを重ねることもいいようです。そして、いろいろなジャンルの本を乱読するぐらいの気持ちで、読書に努めることもいいようです。偶然というのは、どんなことが、いつ、どこで訪れるか分かりません。ちなみに乱読という言葉は、著書「思考の整理学」で有名な、お茶の水大学名誉教授の外山滋比古先生の著書「乱読のセレンディピティ」からお借りしました。なお、セレンディピティについては、外山先生のいくつかの本に詳しく記載されています。今日も「読書のすすめ」をさせていただきました。年末年始、落ち着いて読書してみてください。3年生はなかなかその時間はとれないと思います。でも、大切なチャンスを逃さないために、という意識をもって、ポアンカレ先生の「偶然はそれを受け入れる準備のできた精神のみに訪れる」という言葉を心に留めておいてください。

最後に、3学期のことを申します。SSHの取組を少しお伝えしておきます。

1年生は、1月21日に、普通科6クラス生徒全員が「SSIキャンパスツアー」として長岡技術科学大学で研修を行います。大学の先生方から講義を受けたり、大学構内の先端施設の見学も含まれています。有意義な研修にしてください。また3月には1年生全員を対象に、長岡技術科学大学の留学生に来てもらって「SSIAサイエンスイマージョンプログラム」を実施します。そして、2月29日から、「長岡高校SSHハワイ自然科学研修」を実施することになりました。1・2年生の10人に参加してもらいます。長岡高校の代表として、「SSHハワイ自然科学研修」チームの一員として行ってもらうことになります。事前研修をしっかりと積んでもらい有意義な研修となるようにしてください。なお、来年度の海外研修について、ハワイ自然科学研修は継続する予定ですし、8月の「グローバル人材育成アメリカ研修」も継続したいと考えていますので、再度、チャレンジしてください。他にも「スーパーサイエンス」の科目の中でSSHの様々な取組を進めます。承知しておいてください。

それでは、3学期始業式は1月8日です。今年は暖冬傾向ですが、長岡はきっと積雪ということになっているでしょう。雪道を、笑顔で明るい表情で、元気に登校してくれることを願っています。よい年をお迎えください。